

# 生活者ネットニュース



■発行:多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者:原田恭子 ■連絡先:〒206-0014 多摩市乞田 1227-1-112 番地  
■TEL:042-376-5758 ■FAX:042-376-8854 ■ホームページ <http://www.tama-net.jp/> ■E-mail:office@tama-net.jp

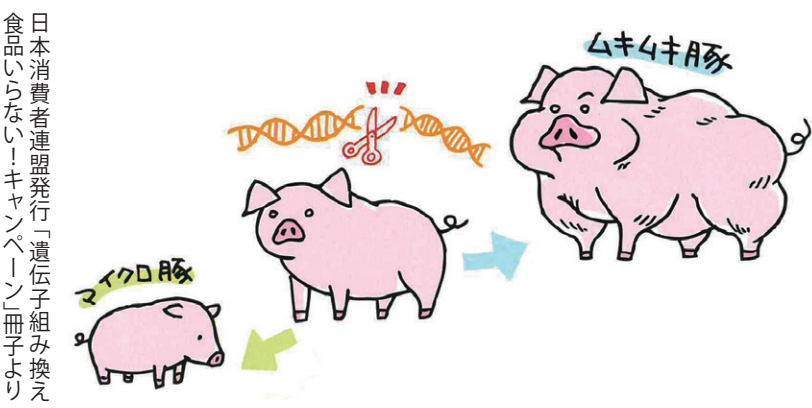
146号

## 許していいのかが！ 生命をもてあそぶゲノム編集

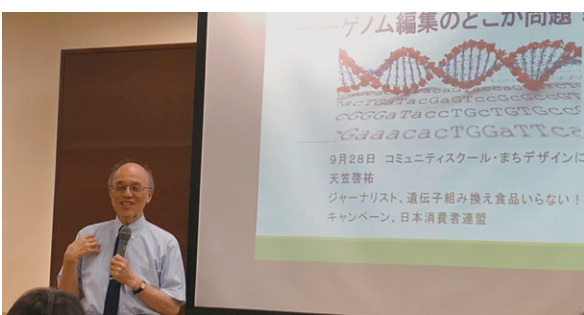
昨年11月、ゲノム編集により双子の赤ちゃんが誕生した(中国)との報道には驚きました。赤ちゃんの父親がHIV感染者で、子どもにも感染しないように遺伝子操作した赤ちゃんでしたが、インフルエンザが重症化しやすくなった、脳の認知機能にも影響を及ぼしたり寿命が短くなる可能性があることが明らかになりました。さらにゲノム編集されたムキムキ豚、マッスル鯛、高GABAトマトなどが開発されており、すでに10月1日から流通されているのです。

### 人間の都合で 遺伝子进行操作

遺伝子組み換え技術は、ほかの生物の遺伝子を導入する技術で、ゲノム編集は遺伝子の働きを壊す技術です。遺伝子を指定して壊すことができるとなると、応用が広がって



日本消費者連盟発行「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」冊子より



9/28コミュニティスクール・まちデザイン主催の学習会「進化」した遺伝子組み換え技術?ゲノム編集のどこが問題か講師は天笠啓佑さん(ジャーナリスト)。

います。例えば豚のミオスタチン遺伝子という筋肉の成長を抑制する遺伝子を壊すと成長が早い筋肉質のムキムキ豚になります。逆に成長を促進する遺伝子を壊すと小さなマインク豚になります。つまり、ゲノム編集とは目的とした遺伝子をピンポイントで止める技術のことなのです。ゲノム編集技術自体は1996年に登場していますが、目的とする遺伝子の位置に誘導する技術とDNAを切断することが

困難でした。しかし、必要な遺伝子を追加したり、問題の原因となる遺伝子を無効にしたりすることが可能な技術が発見されDNAを操作することが可能となりました。ゲノム編集は遺伝子情報に載せたDNAを切断することですが、目的とする遺伝子以外のDNAも切断する可能性があるので、DNAの文字数は何十億もあるので、間違いをなくすることは不可能です。壊してよい遺伝子などないのです。

### 暴利をむさぼる 多国的企業に規制を

遺伝子組み換え技術によりモンサント社やデュポン社等の大手バイオ企業は種子を支配することで食料支配に成功し、莫大な利益を上げてきました。しかし、遺伝子組み換え技術への批判が高まりつつある今、今度はゲノム編集などの開発に邁進しています。ヨーロッパ(EU)やニュージーランドでは反対する市民団体が裁判に持ち込んで、規制を勝ち取りました。中国でも遺伝子組み換え作物並みの規制をもっています。それに対して日本ではDNAを切断することに関して、環境省も厚労省も規制をしていません。内閣府食品表示検討委員会も消費者庁も食品表示の必要なしとしています。このままでは環境影響評価も食品の安全審査も食品表示もいままに通常の食品と変わらずに私たちの食卓に登場することになります。なぜ、表示の義務がないのか・・・遺伝子組み換え食品が失敗したのは表示したから、今度は知らせまいとしているという穿った見方をしたいと思います。

では、私たちにできることは何でしょう。①ゲノム操作食品の表示を求める②スーパーや外食産業に不使用を求める③政府に規制を求める④学習会を開き問題をつたえる。生活者ネットワークでは遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーンに賛同し「すべてのゲノム編集食品の規制と表示を求める」署名活動をしています。署名用紙はネット事務所にあります。

「多摩市受動喫煙防止条例」が10月1日より施行されました。不特定多数の人の利用する公共施設などでは、子どもや妊婦、病気等で配慮が必要な人はもちろん、誰もが他人のたばこの煙にさらされることなく、安心していきいきと暮らせる街を目指した条例です。

市民が受動喫煙を避けることができるように、環境を整備し、受動喫煙による健康の悪影響を未然に防ぐとしています。私は多摩市でヘルパーとして障害福祉や介護保険の仕事をする中で、思うことがあります。利用者宅に、たばこのにおいがするお宅が少なくないことです。ほとんどの方は、ヘルパーがいる間は吸わないでいてくれますが、ご配慮いただけない方もいらっしゃいます。喫煙の期間が長いお宅では、家具から壁紙、カーテンまで家中においが染まっています。その中でマスクを使い、山盛りになった灰皿、カーペットの灰など片づけますが、家に帰ると髪の毛から靴下まで、においが染まっています。利用者さんは、一番リラックスしたい自分の家で吸えなかったら、どこで吸えばいいのかわかりません。たばこのにおいもわかりません。ただ、私たちのように仕事上、逃れられない人たちはどうしたらいいでしょう。悩みます。



### お互いの立場を理解して

市議会議員 **岩崎みなこ**



## 改めて、子ども主体の「子ども権利条例」を望む

■ **全面的に**  
 児童精神科医の佐々木正美先生の書籍では「乳幼児期がうまくいかなかったときには、あとでいろいろなことを補う必要があります。だれかに全面的に受容されることを経験しなくては、子どもは、前には進めません。小学生になろうと、中学生になろうと間に合うのです。」子ども期がどれだけ重要かが分かります。

■ **必要なのは**  
 特に、子ども期に、「生きていていいあなたは一人じゃない 自分らしくていいあなたは悪くない」のメッセージを込めた条例を制定すべきとの思いから一般質問に臨みました。

■ **尊重しあう対等な関係**  
 市長は3期目の公約で「子ども若者総合支援条例」の制定を掲げましたが、これで

は子ども権利条約に基づく、基本的な人権を謳ったものにならないとの危惧を持ちました。つまり、支援となると範囲や条件があつたり、おとなが使いがちな権利と義務の関係性からくる「宿題をしたらおやつを食べていいよ」のような取引的な考え方に陥りがちです。

■ **子どもを優先した工夫**  
 健康宣言や食育推進計画を策定した多摩市は少なくとも20分以上、30分から1時間かけてよく噛んで食べるのが望ましいと答弁しており、教育委員会も短いと認めています。給食時間がとれない理由に教師の勤務時間を挙げていましたが、子どもの給食時間がその為に犠牲にならないよう、教育委員会のいう「工夫」に期待しています。

また「食」は口腔、運動、睡眠や休養等、各々関わりがあり、他市では保健と食育を合わせて計画づくりを進めています。健康づくりと食育は切り離せません。多摩市でも横断的な取り組みを進めてもらい、第4次食育推進計画の策定には、盛り込んでもらいたいと提案しました。

市議会議員 **岸田めぐみ**



## 学校給食は食生活の基礎をつくる

■ **必要なゆとりとした時間**  
 食育基本法では、「食育」は全ての世代に必要なだと述べつつ、子どもたちの心と身体と人間性を育む基礎となります。学校給食は食育における主要な役割を果たしています。多摩・生活者ネットワークでは給食時間の短さは10年以上前から訴えてきました。2017年と2018年に5回行われた学校給食献立検討市民懇談会でも、4度、給食時間が短いという意見が上がっており、栄養士からも同様の意見がありました。配膳も入れると、小学校では40〜45分。中学校では長くて30分、多くの学校が25分です。準備は急いでも10分程かかるので、実質食べ

る時間を考えるととても短く、生活習慣病

本来、何を食べるかということは、プライベートなことですが、何を食べるかは、心も体も生き生きと暮らしていくために大きな影響を与えます。

■ **子どもを優先した工夫**  
 健康宣言や食育推進計画を策定した多摩市は少なくとも20分以上、30分から1時間かけてよく噛んで食べるのが望ましいと答弁しており、教育委員会も短いと認めています。給食時間がとれない理由に教師の勤務時間を挙げていましたが、子どもの給食時間がその為に犠牲にならないよう、教育委員会のいう「工夫」に期待しています。

■ **子どもを優先した工夫**  
 健康宣言や食育推進計画を策定した多摩市は少なくとも20分以上、30分から1時間かけてよく噛んで食べるのが望ましいと答弁しており、教育委員会も短いと認めています。給食時間がとれない理由に教師の勤務時間を挙げていましたが、子どもの給食時間がその為に犠牲にならないよう、教育委員会のいう「工夫」に期待しています。

また「食」は口腔、運動、睡眠や休養等、各々関わりがあり、他市では保健と食育を合わせて計画づくりを進めています。健康づくりと食育は切り離せません。多摩市でも横断的な取り組みを進めてもらい、第4次食育推進計画の策定には、盛り込んでもらいたいと提案しました。

■ **子どもを優先した工夫**  
 健康宣言や食育推進計画を策定した多摩市は少なくとも20分以上、30分から1時間かけてよく噛んで食べるのが望ましいと答弁しており、教育委員会も短いと認めています。給食時間がとれない理由に教師の勤務時間を挙げていましたが、子どもの給食時間がその為に犠牲にならないよう、教育委員会のいう「工夫」に期待しています。

■ **子どもを優先した工夫**  
 健康宣言や食育推進計画を策定した多摩市は少なくとも20分以上、30分から1時間かけてよく噛んで食べるのが望ましいと答弁しており、教育委員会も短いと認めています。給食時間がとれない理由に教師の勤務時間を挙げていましたが、子どもの給食時間がその為に犠牲にならないよう、教育委員会のいう「工夫」に期待しています。

### 決算特別委員会より

岩崎みなこ

#### ■ 子ども教育分科会のテーマは

##### 「子ども健やかな育ちを支えるための保護者への支援」

パパママ学級は出産後も実施すべきと考えます。乳幼児に直面する困難に対応したカリキュラムの実施は、虐待防止にもなります。子どもの権利を伝えるCAPのプログラムも盛り込めます。

#### ■ 会派の総括質疑から2点

今は、人対人の仕事、虐待、障がい、貧困など手間と時間をかけざるを得ない業務が多くなっています。今の処遇と配置ではない人材の投資を求めます。

16歳の環境活動家グレッタ・トゥンベリさんは「地球温暖化はおとなの責任。これからの10年間でその後の地球温暖化が決まる」と言います。環境部は職員に意識改革をすることにより、市民への環境啓発の意識も生まれやすくなります。

公共施設の改修が続きますが改修時に省エネ対策を充実し、同時に市内全体のCO<sub>2</sub>削減もすべきです。

#### ■ その他の決算審議から

受動喫煙防止として、踏み込みにくいものの自宅でのマナーも必要です。同室の子どもやヘルパーなど力関係のある場合、行政の啓発、指導は重要です。

中学校の「特別な教科・道徳」が初めて採択されました。文科省は必ず教科書を使用すべきとは言いませんが、教育委員会は現場にそのことを改めて伝えるべきです。また他者との比較や内申点とはしないとしていますが、教科であると生徒の内心の自由が抑制され、一つの流れに向かわせ易く、みんな違ってみんないいという授業ができてくるか注視すべきです。



「よみがえれ大栗川を楽しむ会」では10月、霞が関橋下流の清掃活動の中で、プラごみ調査を行い、レジ袋や包装プラを数えました。

### 決算特別委員会より

岸田めぐみ

#### ■ 生活環境分科会のテーマは「廃プラスチックの発生抑制にむけて」

多摩市は資源化の分別が進んだこともあり、ごみの総量は減っていますが、廃プラスチック量は年々増えています。実際に公園や川の清掃をすると、たばこのフィルター、袋やペットボトルなど、プラスチックのごみの多さをよりリアルに感じています。資源化センター管理運営事業では容器包装リサイクル法に基づき、分別収集されてきたものをリサイクルに回しており、テーマに沿った評価の難しさもあります。しかし会派としては分別袋がプラスチックであり、発生抑制の啓発観点からもより環境に優しい素材への変更検討を提案しました。

またごみ減量化推進事業では、プラスチック容器も含めて買わずをえない状態であり、エコショップ認定項目に例えばトレーを使わずに販売等、今より踏み込んだ項目の変更が必要とされています。年々、様々な研究結果により、プラスチック焼却に由来する二酸化炭素排出や海洋汚染、生態系への悪影響が深刻な状況であると次々と明らかになっています。ごみとして出てくるプラスチックにはリサイクルを呼びかけ、資源化していく必要があります。しかし同時にリサイクルの非エコ性も啓発し、廃プラスチックの発生抑制のさらなる工夫が今すぐ求められます。

### infomation

#### 映画「あん」上映会&トークショー (多摩市「人権のつどい」)

〜ハンセン病を知っていますか?〜

樹木希林さんの最後の主演作品の上映と原作者ドリアン助川氏と出演者(調整中)

■日時 12月15日(日) 13:30開演予定

■場所 関戸公民館8階ヴィータホール

■問合せ 多摩市くらしと文化部 平和・人権課 042-376-8311 詳細は11月20日のたま広報に掲載予定